

# 会 議 録

## 1 会議名

令和3年度 第8回諏訪区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 報告事項

○ 上越市消防団上越方面隊諏訪分団の組織体制の見直しについて（公開）

### (2) 自主的審議事項

○ 二貫寺の森の活用について（公開）

1) 自主的審議のまとめ方について

## 3 開催日時

令和4年3月2日（水） 午後7時から午後8時10分まで

## 4 開催場所

諏訪地区公民館 集会室

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：川上 奈津子、川上 久雄（会長）、川室 光昭、西嶋 明子、服部幸雄、  
星野 実、堀川 悦郎、山岸 愛、山岸 真也、山田 勝也、山田 哲平（副  
会長） （欠席1人）
- ・ 市役所：危機管理課 西條消防係長、清水主任
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長

## 8 発言の内容（要旨）

### 【藤井係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

**【川上会長】**

- ・会議録の確認：服部委員に依頼

次第2議題「(1) 報告事項」の「上越市消防団上越方面隊諏訪分団の組織体制の見直しについて」に入る。市の危機管理課より説明を求める。

**【危機管理課 西條係長】**

- ・資料1に基づき説明

**【川上会長】**

今ほどの説明について質疑を求める。

**【服部委員】**

2部に分かれたわけだが、旧定員と合併後の定員は決まっているのか。

**【危機管理課 西條係長】**

これについてはよく質問をいただくのだが、上越市の消防団として、各消防部に何人という具体的な定員数については、定めたものはない。

概ね、1消防部で15人から17人、多いところでは20人を超えるところもある。その程度の人数がいるところが多い状況ではあるが、「何人いなければならない」という具体的な定員数を定めたものはない。

ちなみに今年度の諏訪分団の消防部団員数でいうと、米岡消防部が14人、鶴町消防部が9人、高森消防部が5人、上真砂消防部が9人いる。

また例えば、4人の団員がいなければ、可搬ポンプを動かして消火活動にあたることができない。そのため、少なくとも5人以上は実団員として動ける人がいなければ、消火活動はなかなか難しいと思う。

また例えば、5人の団員がいたとしても、その5人が毎回必ず出られるのかというところとは限らない。よって、5人が複数班いるような体制等、おのずと15人以上いる消防部が多いところではある。

**【川上会長】**

自分からも質問である。

2部に統合されるわけだが、実際、町内によっては消防団に入っていない町内も

ある。今後の見直しとして、そういった町内の人に消防団に入ってもらえるように勧誘することはできるのか。そういったことは各地区に任せてあるのか等、教えてほしい。

この諏訪地区には昔からのいろいろな伝統があり、そのようになってきているとは聞いている。その辺の話は、資料1記載の会議では出なかったのか。

**【危機管理課 西條係長】**

まさに今ほど、川上会長の質問にあったような話は、8月に開催した会議の場でも出た。

諏訪地区だけではないが、消防団を作る時に中心となる町内会と、それに賛同する町内会があり、基本的には中心となる町内会から団員を出していたという経緯のある地域もあると聞いている。

今回のように、団員数が少なくなり再編を伴うことにあたり、やはり町内会名を冠したままでは、それ以外の町内会からの協力が得られない。それであれば、名前を残すのではなく、刷新して地域全体で団員の勧誘・掘り起こしを頑張っていこうというありがたい意見もいただいたところであり、市としてもそのように捉えている。

**【川上会長】**

そのようになるとよいと思う。

他に質問等あるか。

(発言なし)

以上で次第2議題「(1) 報告事項」の「上越市消防団上越方面隊諏訪分団の組織体制の見直しについて」を終了する。

次に次第2議題「(2) 自主的審議事項」の「二貫寺の森の活用について」の「1) 自主的審議のまとめ方について」に入る。事務局より説明を求める。

**【小林センター長】**

- ・スライドを使用して、自主的審議について説明

**【川上会長】**

地域活動支援事業については、令和4年度で終了してしまう。だが、いろいろと提案をいただいたため、何かしら協議の上でうまく進めていける方法があるように

思う。

今ほどの説明について質疑を求める。

**【山岸 愛委員】**

本筋から外れると思うのだが、せつかく事例が出たため補足である。

「わがまち三郷 再発見マップ」は、諏訪で作成した「諏訪のいいところ見つけた」を見た三郷の人より、「これを作りたい」「どこで作ったのか」「どのようにしたのか」といったことを聞かれたため、それらに答え、それを受けて作成したものである。そのため、三郷区のマップの作成には諏訪区も役に立ったと思っている。

諏訪区も頑張っていると思ったため、皆にも共有する。

**【川上会長】**

それに関しては、諏訪区のほうが先進的だったように思う。すでに皆の手元にあると思うため、資料を見て似ていると思った委員もいたかもしれない。

事務局より、意見書の提出についての説明もあった。諏訪区としても、そういったかたちに持っていくことができればよいと思っているのだが、それも含めて意見等あるか。

**【山岸 愛委員】**

スライドに「3 地域を元気にするために必要な提案事業の活用（元気事業）」とあるが、例えば今後、大変だということは重々承知の上で、二貫寺の森の活用について長いビジョンで考えていくとなった場合、まずは地域協議会が団体・人を見つけてくる、または自分たちが兼任する等、何かしら団体等を立ち上げることが先決というか、する必要があるということなのか。

**【川上会長】**

自分も「元気事業」は諏訪区としても活用できるとの思いもあるが、地域協議会が中心となるだけではなかなか進まない。地域協議会がいろいろな意見を取りまとめ、「こうしてはどうか」といったことを提案できればと思う。

やはり、ある程度の団体を立ち上げ、その団体が中心になって動いていかなければならないように思う。様々な人や団体等から話を聞いて、意見書として上げていくかたちを取っていくことが理想だと思っている。

事務局より補足等あるか。

#### 【小林センター長】

先ほどの説明の中で、元気事業を行う際に注目してほしい話をした。

1月6日に開催された地域協議会会長会議であった中川市長の話を抜粋して読み上げる。

「現状では既存の制度として、地域を元気にするために必要な提案事業がある。市の担当課やまちづくりセンターでは早い段階で議論に加わり、実現可能な取組として進めていく。地域協議会においては、令和4年度はこの事業の活用を念頭に置き、自主的審議を進めていくことを期待している」といった話があった。

確かに、元気事業は実績も少ないのだが、これに取り組んで進めてほしいとの言葉もある。

進め方としては、やりたいことが決まり、それを行うための方法として「『元気事業』という方法をとるために、地域の組織体が必要」といった順番で決まってくれていると思う。

#### 【川上会長】

今後は地域活動支援事業がなくなり資金源がなくなるため、今までのようなことはできなくなる。やはり母体となる団体を作り活用していくことがよいかと思う。

地域協議会は意見を聞く等して市に提案して資金援助ができるようなかたちが理想だと思う。

#### 【山岸 愛委員】

要は、二貫寺の森を活用してくれるような組織を作ることが、将来的には必要になってくるとの考え方でよいと思う。

#### 【川上会長】

将来的にはそういったかたちに持っていくことが理想だと思うのだが、すぐには難しいかもしれない。今後話し合っ、そのかたちに持っていくことができればよいと思う。

他に意見等あるか。

#### 【堀川委員】

事務局の説明を聞いて、道筋はよく分かったのだが、次回以降、自分たちはどのようなことを考えて地域協議会に臨めばよいのか、次回以降の会議でどのようなこ

とを協議するのか教えてほしい。

**【小林センター長】**

具体的なスケジュールについては、後ほど諏訪区担当の藤井係長より説明する。

事務局よりスケジュール案の提供はするが、理想としては地域協議会の協議の中から、「次はこれ、最終的にはここ」とスケジュールの組み立てができることが1番よい。

今後、開催を考えている意見交換について藤井係長より説明する。

**【藤井係長】**

具体的に決まっているわけではないが、イメージとして、4月・5月くらいに関係団体との意見交換会を行ってはどうかと思っている。

これまで地域で二貫寺の森に携わってきた人たちに、どのような困りごとがあり、またどのような展望・思いを持っているのかということを押さえたいと考えている。実際に関わってきた人たちの声を聞き、地域協議会としてどういうことを展望していくのか、まずは方向づけの機会を持つことができればよいと思っている。これは提案である。

方向が持てたときに、それを進めていく方法として、1つには「元気事業」があり、1つには「意見書」がある。また地域だけできる方法があった場合には、「地域で解決していく」ということに繋げていくこともよいと思う。

いずれにしても、地域住民の思いを捉えながら地域協議会としてどちらに行きたいのかを、まずは考えてほしい。それを考えた上で、市の担当課・地域団体等、少しずつ具体的な折衝をしていく中で、より方向性が見えてくるのかと思っている。漠然とした話ではあるのだが、今はそのように考えている。

**【堀川委員】**

もう1点質問である。道筋の中に含まれるか否かを確認したい。

「市長に意見を言う機会」として「移動市長室」といった名称だったと思うのだが、そういったことで市長をお呼びすることはできるのか。

**【藤井係長】**

自分も詳しくはないが、直接、市長が地域住民・団体の声を聞きたい・参考にしたいといった理由で行っているものだと思うため、意見書とは別の話だと思っている。

る。市民・団体の話を聞いているので、地域協議会として市長に伝える方法とは別だと思っている。

合併前の旧 13 町村等も含め、いくつかの場所で市長が執務を行い、午前・午後と時間を決めて申込みのあった人から話を聞く・意見交換をするといったことが、始まったところである。

#### 【川上会長】

今ほど堀川委員より話があったように、まだ漠然としている状態で進めていかなければならないのだが、今までにも何度も「二貫寺の森で何かできるのか」「イベントができるのか」といったことを話し合ってきたのだが、まだまとまっていはいない。

参考として、2月5日開催の「わくわくウォッチング」についてお話しする。

当日は、西嶋委員が主体として参加したほか、堀川委員と小林センター長にも参加いただき、雪の中で巣箱の取り付け作業を行い、作業終了後には反省会を行った。

反省会の中で子供達から意見が出たため、参考までに補足する。大人が考えることと違うようなこともあるのだが、まず、二貫寺の森で何をしたいのかというと、似たような回答もあるのだが、「キャンプをしたい」「みんなでカレーを作りたい」「お泊まり」「動植物園を造れないか」とあった。

またイベントとして「食べられる植物を探したりできないか」というものがあり、これは桑の実やクルミ拾い等だと思う。実際にそういった植物を取ってよいのかは分からないのだが、そういった意見があった。

その他、「ショップを開けないか」「たこやきや地元野菜の販売ができないか」「二貫寺の森の動画を作ってPRできないか」という意見もあった。

また、子どもらしい意見として、「サバイバルゲーム」「スノーモービル」というものもあった。

そして「森の順路、入口の看板が分かりづらい」というものもあった。この「入口の看板が分かりづらい」とのいうことは1番の大きな問題だと思った。

次に「どんな森だと楽しいのか」と聞いたところ、「すべり台があったらよい」「アスレチックがあったらよい」「木登りをしたい」という子どもらしい意見もたくさん出た。

こういった意見を踏まえて、地域協議会としても意見交換会の際に質問ができればと思っている。

また当日の講師で来られた勝俣先生より「小学校、中学校の先生を巻き込んで文化祭等を行ってはどうか」という話もあった。あとは、やはり地域全体をまきこんで活動することが1番大きなことだということも話していた。

「わくわくウォッチング」には堀川委員も参加していたが、その際に感じたこと等あれば発言願う。

#### 【堀川委員】

初めて参加した。最初はどんな感じなのかと思い不安だったのだが、子どもたちと一緒にいたおかげで自分も楽しい時間を過ごすことができた。

また、冬の二貫寺の森の中を雪に埋まりながら歩くことも、子どもに戻ったような気持ちで楽しかった。

やはり、この森を活かしていくことができればよいと思った。

自分はどんな小さな規模であっても、自分たちが頑張れば絶対にできると考えている。そのため、地域協議会委員もいろいろな意見を出してほしいと思っている。

#### 【川上会長】

イベントに参加すると、二貫寺の森のよさも分かると思うため、PRできるようなかたちに持っていければよいと思っている。

取りまとめることも難しく大変なのだが、改めて事務局とも相談していきたいと思う。委員全員で話す場合、なかなか話もしづらい・まとまらないということがあられると思う。以前は2つの班に分かれて話をしてきたため、そのようなかたちのほうが話しやすいということもあると思う。

今後、どのようなかたちで進めていくのかも含めて、正副会長と事務局で検討し、次回の会議で提案したいと思っている。

#### 【小林センター長】

先ほどは少し突き放したようないい方をしてしまい申し訳ない。

委員に決めてほしいということは確かに思っているのだが、「こんなことがやりたい」「このような施設にしてほしい」といった意見があれば、事務局として方法を提案していきたいと思っている。そのため、まずは意見交換を通して、どのよう

な方法があるのかを提案していきたい。

いずれにしても、あまり委員をもやもやさせる・迷子にするといったことは、事務局としてはしないつもりであるため、安心して意見を出してほしい。一緒に実現可能性を探っていきたいと思っている。

#### 【川上会長】

せっかく他の団体との意見交換を考えているのだから、よい意見が出て、よい方向に話がまとまっていけばよいと思う。今期の地域協議会は残り2年しか任期がないため、何とかうまくまとめていくことができればよいと思っている。

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「二貫寺の森の活用について」の「1) 自主的審議のまとめ方について」を終了する。

次に次第2 議題「(3) その他」に入る。本日の議題に関して、何かあるか。

(発言なし)

最後に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局より説明を求める。

#### 【藤井係長】

- ・自主的審議に係る意見交換会の開催について説明

時期：4月または5月で調整（※日程は別途調整のうえ通知）

会場：諏訪地区公民館 集会室

- ・令和4年度地域活動支援事業の事前説明会の開催について説明

日時：3月9日（水） 午後7時から

会場：諏訪地区公民館 集会室

その他：委員の出席は不要

#### 【川上会長】

3月9日に令和4年度地域活動支援事業の事前説明会を開催し、自分と山田副会長が出席する。委員の中でも参加したい委員がいれば、説明会に出席いただければと思う。

また承知のように、次年度の審査に関しては市が行うことで了解いただいているため、了承願う。

最後に、全体を通して何かあるか。

(発言なし)

次年度の諏訪区の地域活動支援事業の配分額が人口の関係で10万円ほど減額となっている。機会があれば、関係団体等に周知願う。また、追加募集もないため、残額が出ないように、応募への声かけも願う。

コロナ禍の影響もあり、昨年・一昨年と残額が出ている。実際に活動ができないために返納する団体もあるようだが、最後となる次年度はうまく使い切るかたちにもっていくことができればと思うため、協力願う。

・会議の閉会を宣言

## 9 問合せ先

自治・市民環境部自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mailchubu-machi@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。